

「震災復興過程における組織情報システムに関する研究」

渡邊 慶和（ソフトウェア情報学部 教授）、南野 謙一（ソフトウェア情報学部 講師）、
後藤 裕介（ソフトウェア情報学部 准教授）

<要旨>

本研究では、主に2つのテーマに取り組んだ。主テーマ1「地域のモビリティ再検討」では質的研究法による地域固有の交通手段選択プロセスと交通需要の分析を行った。分析結果から交通手段選択は利用可能な交通手段の制約下で移動に関し共通する価値観の影響を受けた上で、個々人の価値観である交通手段への想いをふまえ比較検討・決定されることがわかった。主テーマ2「復興に向けた地域のICT教育」では参加者間の交流持続を実現するタブレットPC教室の提案を行った。参加者の交流を促進・持続させるための学習内容、機器貸与や講師・TAの関与施策を設計し、実証実験を通じ交流促進・維持とともにスキル向上も実現されていることを確認した。

1 研究の概要

本研究は、震災復興過程における組織情報システムに関して個別テーマへの取り組みを通じて接近を試みるものである。主テーマ1「地域のモビリティ再検討」では地方の過疎化・高齢化に伴い、次世代モビリティやシェアリングサービス等への関心の高まりの中、その導入を成功に導くために、ローカルな文化や価値観を考慮することができる質的研究法を用いて交通事情に特徴がある地域を対象事例として地域住民の交通手段選択プロセスと交通サービス需要を明らかにする。

主テーマ2「復興に向けた地域のICT教育」では被災地でのコミュニティ形成が課題とされる中、年齢・性別等多様な参加者が期待できるイベントであるタブレットPC教室に関して、教室終了後の住民の交流持続に着目し、そのための教室設計を行うことを目的とする。

2 研究の内容

主テーマ1では、地域の過疎・高齢化や災害の影響があり公共交通機関の見直しも進められつつあるA市とその近隣住民を対象として14名にインタビューを実施した。「特定地域における地域固有の交通手段選択プロセス」という分析テーマでM-GTAによる分析を行った。

主テーマ2では、インストラクショナル・デザインの基本モデルであるADDIEモデルを用いて参加者の間でコミュニケーションを促進・持続させるタブレットPC教室の設計を行った。その後、設計した5回シリーズの教室を2期に渡り計18名の参加者を対象に実証実験を行った。教室開始時・途中・終了後の各時点でアンケートをとり、交流の状況やスキルの変化を定量的に分析した。

3 これまで得られた研究の成果

主テーマ1に関する結果を文章化したストーリーラインを示す[1]。“過疎・高齢化が進みつつあり公共交通機関の利便性が著しく低い地域における住民の交通手段の選択は、選択者の<免許の有無>や<モビリティの所有>等の制約によって【交通手段が限定】される。次に<

快適な移動の実現>、天候等の<悪条件の中での安全な移動の実現>という【交通に対する共通する想い】の優先順位が状況によって変動する。そして個人がそれぞれ交通に対して抱く【個人的な想い】として、それぞれの<交通手段に対する想い>に加えて「同じ地域の住民の移動を助けてほしい」という好意的な想いや「申し訳なさ」、「当たり前だ」という感覚に対する嫌悪感」など助け合うことに後ろ向きの想い等の<地域の仲間に対する想い>を加味した上で【交通手段を比較検討し決定】するというプロセスである。”

主テーマ2に関して、教室設計の概要[2]を図1に示す。

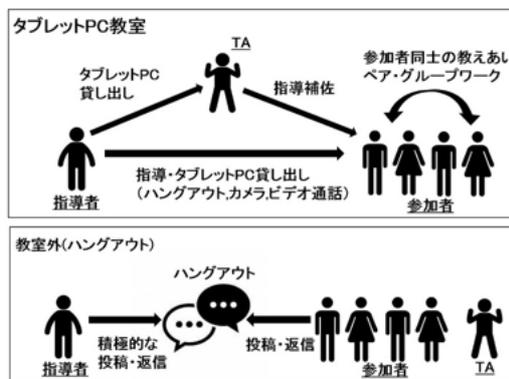


図1：コミュニケーション促進・維持のための教室設計

4 今後の具体的な展開

主テーマ1に関して、成果をもとに需要推定シミュレータを開発する。主テーマ2に関して、地域内での学習コミュニティの自律的成長を実現する仕掛けを検討する。

参考文献

- [1] 田畑他，“質的研究法による地域固有の交通手段選択プロセスと交通需要の分析,” SICE システム・情報部門 第12回社会システム部会研究会, pp.192-199 (2017)
- [2] 森田他，“参加者間の交流持続を実現するタブレットPC教室の提案,” SICE システム・情報部門 第12回社会システム部会研究会, pp.7-15 (2017)